

令和3年度宝塚市自立支援協議会 活動報告書

しごと部会

1

開催回数・人数
委員体制について

2

宝塚市共同受注窓口
グッドジョブについて

3

宝塚市福祉事業所
合同説明会について

4

雇用啓発セミナー及び
他専門部会との横断的
取り組みについて

6

総括

5

各委員への事前協議
(お題提示) について

1 開催日時及び人数 委員体制について

第1回	令和3年5月20日（木）	出席者17名（オンライン）	13:30～15:00
第2回	令和3年7月15日（木）	出席者13名（対面・オンライン）	13:30～15:00
第3回	令和3年9月16日（木）	出席者13名（オンライン）	13:30～15:00
第4回	令和3年11月18日（木）	出席者13名（対面・オンライン）	13:30～15:00
第5回	令和4年1月20日（木）	出席者16名（対面・オンライン）	13:30～15:00
第6回	令和4年3月17日（木）	出席者14名（オンライン）	13:30～15:00

部会長	宝塚市小規模作業所連絡会	会員	木本 大輔
副部会長	宝塚育成事業所	所長	松下 祐介
副部会長	宝塚市共同受注窓口（グッドジョブ）	理事長	熊淵 卓
	あすなろ相談支援事業所	ピアスタッフ	神代 謙
	宝塚市身体障害者福祉団体連合会	会長	志方 龍
	宝塚市手をつなぐ育成会	理事	岡本 康代
	西宮公共職業安定所	専門援助部門	篠原 理恵
	宝塚商工会議所	中小企業相談所長	胡中 美伸
	兵庫県立こやの里特別支援学校	進路指導部長	月嶋 友昭
	ジョブサポート希望	所長	池西 浩一
	ワークプラザ宝塚	所長	松永 仁美
	宝塚健康福祉事務所（福祉課）	課長補佐	関根 友紀
	宝塚市障害者職業・生活支援センター	所長	前川 麻由美
	宝塚市商工勤労課		北山 絵理
宝塚市	宝塚市障害福祉課	基幹相談支援センター	岸 京一郎
事務局	聖隷はぐくみ花屋敷	所長	田口 勇夫

2 宝塚市共同受注窓口グッドジョブ

- しごと部会より派生した事業であるため、部会開催ごとに報告する。
- 運営等で課題があれば部会の議題に挙げていく。
- 市内事業所数47事業所中、29事業所がグッドジョブに加入している。
- コロナ禍により販売イベントやこれまで受けていた催事関係の実績が上がらないため、今年度の実績をどう向上するかが課題になっている。
- 屋外作業などを積極的に受注している。
- 民間の作業依頼は減っているが、行政からご依頼をいただけている。
- 令和3年度見込みの実績は5,700,000円となった。
- 前年度実績を上回ることを達成できた。（前年度実績5,500,000円）

アウトソーシングと福祉を繋ぐ

win-win な仕組み

共同受注窓口という

新しい選択肢

3 宝塚市福祉事業所合同説明会について

第8回福祉事業所合同説明会について

1. 令和3年7月15日（木）

(ア) 自立支援協議会しごと部会にて、オンラインでの開催及び作業部会設立の承認

2. 令和3年8月27日（金）

(ア) 第1回作業部会開催

(イ) 作業部会にて、「チラシ」「事前資料冊子」「冊子構成」「開催手順」について協議

(ウ) 以降は、チャットを活用して、4つの作業グループごとに協議を行う

(エ) チラシの原案作成、印刷、配布調整

(オ) 事前資料冊子の原案作成、構成調整

3. 令和3年10月15日（金）

(ア) 市内福祉事業所へ、事前資料冊子送付、参加有無を確認

4. 令和3年11月19日（金）

(ア) 手話通訳、要約筆記（障碍福祉課に依頼・調整）

(イ) 宝塚市自立支援協議会しごと部会ホームページに「チラシ」と「説明会文章」をアップ

(ウ) チラシ配布開始、すみれ便依頼調整、学校、病院郵送含む手渡し配布

(エ) 事前資料冊子集計、冊子構成調整→未提出事業所へ電話連絡（1回から2回）

5. 令和3年11月24日（水）

(ア) 宝塚育成事業所でウェビナー利用打合せ

6. 令和3年11月26日（金）

(ア) 「福祉事業所合同説明会メール」にて、プレ体験、参加方法、プレゼン参考などと共に案内

7. 令和3年11月26日（金）

(ア) 宝塚市役所HP「事前資料冊子」「ウェビナー参加方法」「オンライン環境等の設定により参加が難しい方の問い合わせ先」をアップ

8. 令和3年12月1日（水）

(ア) 宝塚市役所HP「タイムテーブル」「当日参加URL」をアップ

9. 令和3年12月2日（木）

(ア) 「事業所プレ体験」を実施。プレゼンの方法や、機能的なことについて実演

10. 令和3年12月5日（日）

(ア) 合同説明会 当日 午前10時～午後3時（別添資料参照）

参加事業所 25事業所

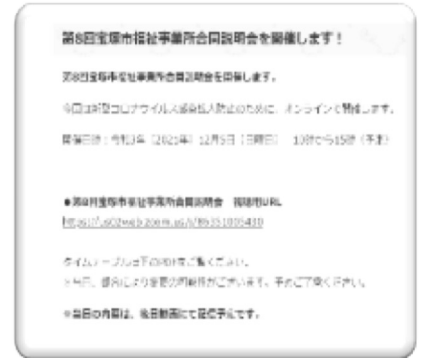
閲覧者 最小38名～最大49名 延べ閲覧人数 120～150名

宝塚市自立支援協議会 第8回福祉事業所合同説明会 タイムスケジュール

- オンラインでの開催→ズームウェビナー機能を利用
- 担当者は、宝塚育成事業所に集合。
- 熊淵副部長(司会 全体進行) 松下副部長(進行補助) 手話通訳 要約筆記 宝塚市障害福祉課
- 事業所紹介画面 + 手話通訳画面 + 要約筆記画面
- 手話通訳(午前・午後2名ずつ計4名) 育成事業所PC1台を使用
- 要約筆記(午前・午後3名ずつ計6名) ウェビナー用に育成事業所PC1台を使用 要約筆記用に宝塚市PC3台使用

開始 終了

8:00		機材準備、設定 (熊淵 松下)		
9:00		障害福祉課 手話通訳 要約筆記 受け入れ		
9:30		最終打ち合わせ		
10:00	10:05	案内		
10:05	10:10	動作確認		
10:10	10:15	開会式 木本部長動画あり		
10:15	10:25	1 ヘイル		就労継続支援A型
10:25	10:27	入れ替え		
10:27	10:37	2 じょぶはーと	サポートあり	
10:37	10:39	入れ替え		
10:39	10:49	3 トレジャーシップ	サポートあり	就労継続支援B型
10:49	10:51	入れ替え		
10:51	11:01	4 育成事業所 (A) 5 育成事業所 (B)		
11:01	11:03	入れ替え		
11:03	11:13	6 レモンツリー		自立訓練
11:13	11:15	入れ替え		
11:15	11:25	7 リンクアップ	サポートあり	
11:25	11:27	入れ替え		
11:27	11:37	8 ラブリーガーデン	サポートあり	就労継続支援B型
11:37	11:39	入れ替え		
11:39	11:49	9 アイディール	サポートあり	
11:49	11:51	入れ替え		
11:51	12:01	10 ワーク友愛 (安倉) 11 ワーク友愛 (小浜)	サポートあり サポートあり	自立訓練
12:01	12:03	入れ替え		
12:03	12:25	機器点検・休憩		
12:25	12:35	12 プラムロックブルー		
12:35	12:37	入れ替え		就労継続支援B型
12:37	12:47	13 れもんの木		
12:47	12:49	入れ替え		
12:49	12:59	14 ハレルヤ+ 15 ハレルヤ	サポートあり サポートあり	
12:59	13:01	入れ替え		生活介護
13:01	13:11	16 ワークプラザ (B) 17 ワークプラザ (生活介護)	サポートあり サポートあり	
13:11	13:13	入れ替え		
13:13	13:23	18 かしの木工房小浜		
13:23	13:25	入れ替え		地域活動小規模
13:25	13:35	19 あしたば園		
13:35	13:37	入れ替え		
13:37	13:47	20 けやきの里		
13:47	13:49	入れ替え		地域活動小規模
13:49	13:59	21 あいえるせんたー		
14:01	14:03	入れ替え		
14:03	14:13	22 Wakaba		
14:13	14:15	入れ替え		地域活動小規模
14:15	14:25	23 ふらっと		
14:25	14:27	入れ替え		
14:27	14:37	24 あおぞら		
14:37	14:39	入れ替え		地域活動小規模
14:39	14:49	25 虹の家		
14:49	15:00	閉会式		
15:10	16:00	後片付け		



自立支援協議会HPより



司会進行を行う熊淵副部長



別棟2階での様子



要約筆記者それぞれの手元のPCで入力された文章が奥のPC(丸印)に反映してまとめられていきます。

※説明会当日確認用のため、事業所名が正式名称ではありません

4 雇用啓発セミナー及び他専門部会との横断的取り組みについて

雇用啓発セミナー

例年2月に行っていた、雇用啓発セミナーについては、前任の竹内部会長の豊富な人脈や知見によるテーマ設定や人選が成功の鍵となっていた。

活動としての意義は高いが、同様の内容を新体制で維持・継続出来るかという点や、今般のコロナ禍を考えていく中で、新しい啓発方法への方向性を決めていく事になり、次項5「各委員への事前協議（お題提示）」へと繋がっていく事になる。

2021年度は新しい啓発方法を考えていく方向で実施せず

他専門部会との横断的取り組みについて

啓発セミナーと同様、より実践的に実現できる方法として、まず横断的取り組みありきではなく、しごと部会全体で課題を共有する空気を醸成し、そこから他部会への働きかけをしていく事に重きを置くことにした。

その流れが次項5「各委員への事前協議（お題提示）」へと繋がっていく事になる。

—昨年度からの取り組み課題を、より実践的に発展

5 各委員への事前協議（お題提示）について

初めに

事前協議事項とは

狙い

所属団体の代表として参加していることを各委員に再認識してもらうため、事前に内容について各自の団体で協議してもらい、「団体の意見」として提出してもらうようにした
また、各委員が自身の感性や考えを積極的に発言できるよう「あなたにとって『はたらく』とは」についても協議内容（お題）に組み込んだ。

第1お題

あなたにとって『はたらく』とは

狙い

『はたらく』に対する考えも多種多様で何が正解というものはない。しごと部会において課題を協議することと同時に、それぞれのはたらし方やそれに対する考え方を理解することが大切になる。事前に委員個人の考えを発表することで、理解し尊重しあえる土台作りをした。

第2お題

しごと部会として各所属団体の課題とは

狙い

各所属団体から課題を出してもらい共有した。様々な課題の中からどの所属団体においても協議しあえるキーワードを何点か抽出し委員に意見を求めた。

検討お題

社会的貢献視点ではない雇用のありかたについて

狙い

委員の一人がキーワードにあげた「社会的貢献視点でない雇用のありかた」について、しごと部会として着目し、企業側が社会貢献ではなく戦力として障害者雇用を進める考え方で、今後、各所属団体の委員としてどのようなことができるのかを考え、協議を深めていく。

6 総括

今年度の成果

- ・例年実施していた福祉事業所合同説明会について、昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、実施することができなかったが、今年度においては、オンラインにより、開催することができた。
- ・委員個人としてはたらくということ考え、振り返ること、また各所属団体として抱える課題を共有することで、次年度に向けたしごと部会としての取り組みを明確にしていくことができた。

次年度に向けて

- ・所属団体から出た課題等を議論、検討し、具体的な計画を立てて、実施する。

委員の感想

- ・委員が思っていることを忌憚なく話ができる環境はいいと思う。勉強や情報交換を繋げていけたら。
- ・20年働いてきたが、しっかり自分と向き合い、市内の課題へ取り組む姿勢を持てた。
- ・支援を行う中で、働きたい気持ちを高めていく手段など考えていきたい。
- ・障害を持つ方のはたらくについて、改めて考える機会となった、向いていることを探すこと。どのように引き出していくのか、考えていきたい。
- ・自身の所属団体として、どのようなことができるか考えていきたい。
- ・働くという意味を本人の立場でもっと考えていきたい。新しい可能性を作っていきたい。
- ・新しいメンバーになり、積み上げてきたものを土台にして、新しい風が吹いていると思う。
- ・次年度に向けて、これまでの検討からしっかりと形にしていきたいと思った。
- ・しごと部会に参加することで、地域連携の必要性を改めて感じた。
- ・しごと部会内のつながりを違う場面でもしっかりと活かしていきたいと思った。
- ・自分自身を振り返り、新しい可能性やアプローチの方法を考えたいと思った。
- ・コロナ禍でリアル開催が難しい中、オンラインやハイブリッドを活用して、開催でき、また参加率が高かったことがよかった。
- ・次年度に向けて、しっかりと計画にしていきたい。
- ・制度の流れや、社会の流れをしっかり掴み、現場での実務にしっかりと落とし込めるようにしていきたい。支援に関わる人に対するアプローチを考えていきたい。
- ・次年度も、意見が言いやすい環境、雰囲気作りを意識していきたい。

あとがきにかえて

令和3年度から前任の竹内部会長の後を任され、どのような部会にしようかはすでに明確に決まっていました。「各委員が活発な意見を出しあい協議できる部会」おそらくどの部会でも理想とする部会の形はそんなに変わらないと思います。ただそれを達成するには、私一人の力では到底およばず、幸いなことにスタート当初から同じ熱量を持った、サポートしてくださる副部会長の2名、そして事務局がいました。

事前の3役会では各委員をどのように巻き込んでいければいいかを考え、部会に臨むことができ、充実した時間を共有することができました。

そして、この報告書は今年度やってきたことを記載する記録ではなく、興味を持ってもらい、内容もわかりやすく、アウトプットできる報告書を作りたいという思いから、形を変え提出させていただきます。

今回、この形が完成されたものとは考えておらず、次年度もより活発な部会運営を目指して、ブラッシュアップしていければと思っております。そして、この流れも、今年度だけで出来上がったものではなく、これまで部会運営にたずさわってこられた、前部会長を筆頭に委員の方々の功績であると思っております。

しごと部会 部会長 木本 大輔